

カトリック六甲教会 教会報

2009

3

No.447

祈りで結ばれた共同体

片柳 弘史 神父

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。(ヨハネ 17:21)

早いもので、わたしが六甲教会に派遣されてから1年になろうとしています。教会のことを全く何も知らなかったわたしがここまでなんとかやって来られたのは、ひとえに皆さんの祈りと支えによるものだと思います。改めて、心から感謝したいと思います。

最近、マザー・テレサについての資料を改めて読み直しています。来年度の入門講座を、「マザー・テレサに学ぶキリスト教」というテーマでやっていると思って、そのための準備をしているのです。読みながら、改めてマザー・テレサの偉大さに衝撃を受けています。何よりもすごいのは、神様に自分を捧げるときの彼女の徹底したやり方です。「あなたにわたしの全てをお捧げします」という祈りの言葉を、彼女は日々の生活の中で文字通りに実行していました。彼女は、あれはしたくないとか、あの人は嫌いだとか、時間ももったいないとか、そのような人間的な思いをすべて放棄し、神の御旨にかなうことであればすべて即座に実行していったのです。それらの一つ一つの行いを通してマザーは自分を神様に差し出し、神様と一つに結ばれていきました。彼女と出会った人は、みな彼女を通して神様の愛に触れたように感じたものです。



このマザーの信仰に見習いたいと思います。イエスが神様と一つであったように、マザーがイエスへの愛によって神様と一つであったように、わたしたちも日々の祈りと実践によって神様と一つになれば素晴らしいと思います。もしわたしたちが神様への愛の中で一つになるならば、もはや福音宣教などという言葉を使わなくてもわたしたちの存在そのものが福音宣教になるでしょう。逆に、もしそうでないならば、どれほど福音宣教という言葉を連呼したとしても何の意味もないように思います。わたしたちが神様への愛の中で一つに結ばれていない限り、神様が救い主を世に遣わしたということを世間の人々は決して信じないでしょう。

神様への愛の中で一つに結ばれていくための祈りと実践の頂点にあるのは、言うまでもなくミサです。ミサは神様のわたしたちへの愛の究極の形であり、またわたしたちの神様への自己奉獻の完成だからです。毎週のミサを大切に、すべてを神様に捧げつくす愛の中で一つになっていきたいものです。



信徒の教会づくり

文化活動あるいは文化力について

柴田

信徒の教会づくりという、むずかしいテーマを与えられ、弱りました。本筋の話はムリなので、周辺の話を書かせて頂くことにしました。

この機に、この教会の信徒の活動を、私の知る範囲で挙げて行って見たところ、ふだん漠然と思っていた以上に多いことにおどろき、反省させられました。

裏表、大小さまざまな奉仕や社会貢献の仕事が多くある中で、合唱、絵画、囲碁将棋、俳句、料理(男)、手芸、植栽園芸、図書室のような、多少とも趣味・実用性のある活動、それに広報と講演会などの各種行事・・・まとめて仮に“文化”と呼べる活動が行われております。

私自身もその2、3に参加させてもらっていますが、ここで改めてそれらの“文化活動”の、教会としての意味を考えているとき、ビ・モンタントと呼ばれる、信徒による文化的活動を思い出しました。日本でも各地の教会で行われていると聞いていますが、これは60年前にフランスの企業家(信徒)が提唱してパリで始まった、“信仰・友情・奉仕”をモットーとするカトリック高齢者生き甲斐創造団体だといわれます。信仰に関する勉強会のほか、短歌や美術等々の趣味同好会的な活動も活発とのこと。当時の教皇が賛意を表し、その助言によって国際的な組織になっているそうです。

団体加入の是非は別として、私たちの教会にもあるその種の集いや活動が、信仰と相まって高齢者に生き甲斐を与え、いきいきとさせるなら、それは当人はもとより、その後姿を見るであろうまわりの者、若者に対しても悪いことではないだろうと思います。そのようなサークル活動は、高齢者に限る必要も全くないことです。

趣味・お稽古事といっても、そのひとつひとつは本来、奥行きのある文化をなしており、多くは「道」として追求されて来た世界です。一人で行なっても十分たのしい事ではありますが、ましてそれを2人でも3人でも集って(マタイ 18: 20 を思い出します)行なうときは、分かち合いや出会いが生れ、あるいは触発されたりして、絆も深められることでしょう。恐らく、それだからこそ、桜井主任神父さまは(前任のオマリー神父さまもそうでしたが)、このような活動のサークルをしばしばお奨めになったり、側面援助して来てくださったのでしょう。

今後は、現在以上に多くのグループが生れても不思議ではないし、それは期待されるころだと思えます。

それも、内輪だけの仲よしグループにとどまることなく、いつも開かれたものとして、可能な限り外の、異なるものも受け入れ、発信や交流をしたりしながら、何らかの還元(お返し)を計って行くのが、福音の精神に照しても望ましい姿だろうと考えます。各種の集いの成果を問う合同作品展の如きものを開催することも、将来の夢となるでしょう。

最後につけ加えるなら、単に信徒の活動というにとどまらず、神父や修道者の方々の著作やブログ(ホームページ)、さらにはこの教会から20年間発信して来た形の「生と死を考える会」の催しなども加えた、ともども一体の“文化力”がとかく高いとされる教会の敷居を低くするように作用して、宣教への予期せぬ通り道ができることを願いたいと思えます。

＋ ＋ ＋ 「宣教部」誕生 ＋ ＋ ＋

六甲教会の専門部会に4月から「宣教部」が誕生することになりました。

六甲教会では今まで福音宣教をしていなかったのでしょうか？教会のいろいろな活動は福音宣教のためではなかったのでしょうか？活発な活動をしてきた六甲教会の信徒として何か違和感を覚えるのではないのでしょうか。六甲教会の組織が信徒会と活動を企画推進する専門部会にハッキリと組織付けられたのは1996年のことでした。それから、社会活動も典礼奉仕も信徒養成も施設管理もすべて主キリストの福音を世に広げるために活動してきました。専門部ばかりでなく教会学校も中高生会、バザーや納涼の夕べどれをとっても「全世界に行って、すべての造られたものに福音を伝えなさい」と言う主の呼びかけに与ろうという気持ちだったと思います。

しかし、今回評議会規約を改正するにあたっていろいろ議論の結果、新たに宣教部が出来ました。

そしてとりわけキリスト教とご縁の薄い方々への活動をさらに活発化しようということになりました。六甲教会の組織が1996年に発足した時代は「信徒の時代」と言われた時でした。そしてようやく本格的に信徒の時代が動き出したのではないのでしょうか。

宣教部では一般信徒の感覚を研ぎ澄ませて、カトリック教会が社会から遊離した団体にならないため、カトリックの専門用語ではなく、社会に理解される言葉で福音を伝えることから始めようと語り合っています。たとえば、通りに面した掲示板をもっと人々の心に届くようなものにしようとか、図書室の呼称をもっと親しみのあるものにしては？とか、信仰講座をいろいろなニーズに応えるものにしよう、そして自分の望む講座はどれかが分かるようにしようなどなどです。これらは宣教部のメンバーばかりでなく共同体の全員に呼びかけられていることです。宣教部では皆様にボランティアを募集します。ご自分で可能なことに積極的に応募してください。たとえば、掲示板にお習字や絵を書いてみたい方、胸を打つ一言に応募したい方、読書会を始めたい方、セミナーを手伝ってみたい方、などこれから項目を決めて募集しますのでそのときにはよろしくお願いします。

とりあえず宣教部は、信仰講座から古泉さんと Sr 出口、図書室から柴田さん、結婚セミナーから中村さんを迎えコーディネーター藤原で発足しました。われこそはと思う方は大歓迎です。奇数月の最後の土曜日 13:30 から教会学校が始まるまで第4会議室でアイデアを話し合いたいと思います。

どうぞご参加ください。

(文責 藤原)



みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

「私の国」

三好

主がピラトに答えられた。「わたしの国は、この世には属していない（ヨハネ18-36）」。
私たちは洗礼によって原罪を赦された。この世では死んで、主がいわれた「私の国」に新しく生まれた。
肉体においてはなおこの世にあっても、もはや「この世」には属していない。
「この世」に属していない私たちは、「この世」の秩序に従うのではなく、主の「わたしの国」の秩序に従う。
わたしたちは、ともすれば自分が「この世」に属していないことを忘れていてのではないか。
「わたしの国」のことを「この世」に託してはならない。

主任司祭の地平線

早春の陽差しを感じるこの頃ですが、今年は予報通り春が早いようですね。教会の庭では紅梅白梅が元気良く咲き誇り、次の主役である木蓮やアーモンドの蕾も膨らんできました。私たち教会共同体も信徒が中心になって教会の内外で活動し互いに仕え合い、信仰を深めながら成長している姿を頼もしく感じています。とりわけ各信徒会と専門部会の評議員と議長団の方々の寛大な奉仕に対して、またこの2年間“規約改定委員会”という難しい任務を果たして下さった方々に皆様と一緒に感謝したいと思います。ありがとうございます。4月から新しく委員・役員を引き受けて下さる方々の奉仕が喜びとなり、互いの成長につながりますように祈っています。

私たち司祭団も四旬節の回心と犠牲のつとめを果たしながら、主の復活祭・洗礼式・新年度の働きに心を馳せています。新年度の司祭団は主任司祭・松村信也神父、助任司祭・片柳弘史神父、協力司祭・安芸瑛一神父、更には大学教育に携わりながら教会の働きに協力して下さるダニエル・コリンズ神父とホアン・マシア神父です。

さて新しい主任司祭・松村信也（のぶや）神父の略歴をご紹介します。戦後まもなくの1947年三重県亀山市に生まれ、会社で勤務された後、1985年にイエズス会に入会。司祭叙階後の1994年から、しばらく六甲教会で働かれ、第三修練後はイエズス会管区本部（財務）、また山口・徳山・下松教会で宣教司牧に携わり、現在は山口ザビエル教会主任司祭と幼稚園園長を兼務されています。社会生活でも修道生活でも経験豊かな方であり、六甲教会に帰って来て下さることを感謝したいと思います。ご本人も喜びと希望をもって、4月中旬に着任して下さいます。神に感謝。



壮年会新年会

1月25日(日)壮年会新年会が行われ、安芸神父、コリンズ神父、マシア神父、片柳神父にも参加いただき39名のメンバーが集まりました。次期壮年会役員が紹介されました。会長の榎木さん、副会長の塚崎さん、飛石さん、亀田さん、大橋さんです。ビールにワイン、お寿司にサンドイッチ、おつまみで腹ごしらえと口が滑らかになったところで、恒例の参加者全員によるスピーチです。流石に多士済々の六甲教会壮年会の皆さんです。教会への関わり、信仰、美術、芸術など幅広いスピーチでした。片柳神父から、「ミサは司祭と信徒との共同作業である、いいミサは教会の力である、自分も司祭として一所懸命にその役割を果たすので互いに聖霊の風を感じながらいいミサをしよう」との新鮮なお話がありました。壮年会のメンバーが互いに声をかけ合い親睦を深め、信仰を深めて六甲教会共同体の発展のために役立って行きたいものです。



3月29日(日)には壮年会総会を開きます。私たち現役員「福田、船井、井川、綿貫、佐伯、川合」も早いもので、はや2年が経ちました。4月から次期新役員の皆様にバトンをお渡しします。ご活躍をお祈りします。

会長 川合



「日韓青年交流会」に参加して

少し、壁を感じていました。ハンゲルが飛び交うキッチンで大柄な男性がフライパンをあおり、豪快にチヂミを裏返す姿が目飛び込んだ瞬間。韓国文化の中に居ることに軽い緊張を覚えたのです。

1月25日。青年会の金さん、呉さんが主催の日韓青年交流会に、六甲教会から青年会を中心としたメンバーが招待を受けました。テーブルには、チヂミに焼肉、オモニ(お母さん)の味のお惣菜がところ狭しと並び、豆腐チゲが湯気をたてています。お祈りで食事が始まり、自己紹介の後、焼肉の食べ方、お惣菜について教えてもらうことでだんだんと会話は弾んでいきました。

フライパンでチヂミを焼いていたのは、息子さんと二人で日本に研修に来ている体育の先生。大学の入学式には自慢の長髪をドレッドヘアにするのだという20歳の男性も。留学生の方々の日本語は流暢で、会話に何の支障も感じさせませんでした。

帰り際、チヂミを焼いていた方が、自分はもうすぐ帰国することになるのだとわざわざ挨拶に来て下さった時。この一度の出会いを大切にしてくれているのだということが実感出来て、頑なだったわたし中の壁をひょいと越えて近づけたように思えました。国際交流に限らず、人と人との交流とはこのようなお互いの歩み寄りや信頼の積み重ねなのかもしれません。

わたし自身がフライパンの中でぼん、と上手に裏返してもらったような新鮮な驚きをもらい、またこのような交流の機会を持ちたいと思いました。

青年会 松島



感謝

三日月会 (100,000 円)、西井様 (50,000 円)、Sr. 小沢を通して、ベボト&リサさんより (10,000 円)、今の不況の中で、仕事や住む家もなく、家族や子供たちと、共に住むことさえできずに、苦しめられている多くの人々のために、少しですが何かに使って下さいと託されました。

お預かりした献金を、Fr 高山や、炊き出し担当者のみな様と相談し下記のように使わせて頂きました。みな様のご協力に感謝いたします。

- 収入金額 160,000 円
- 支出金額 177,761 円

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| ・越冬炊き出し。(カイロ・バナナ・お菓子) 350 食配布。 | (59,241 円) |
| ・1月炊き出し。(コロッケ) 180 個配布 | (16,120 円) |
| ・釜ヶ崎炊き出し。(カップラーメン or うどん) 800 個配布予定。 | (102,400 円) |

Thankyou



教会学校

ジーザスキッズクラス

吉村 (教会学校リーダー)

教会学校では2008年度よりジーザスキッズクラスを開設。毎月第2日曜、9時の子どものミサ後に12時まで行っています。

これまではビデオ(サウンドオブミュージック)の鑑賞、教会学校とジーザスキッズクラスを宣伝する看板の製作、クリスマス会と、『楽しむ』ことを主眼に行ってきました。特に、クリスマス会では16人の子供達が参加し、保護者も料理やお菓子を持ち寄って参加して頂き、素敵な時間になりました。

ジーザスキッズクラスの魅力は学年を越えた友達と関われること。子どもたちはお互いの名前を知り、一緒に見たり、作ったり、遊んだり、様々な体験を共有する中で、自主性や仲間を大切にする心が育っているのを、共に過ごした私たち、リーダーは実感しています。

2009年度はこれまで大切にしてきた『楽しむ』という気持ちを共有しつつ、新しい歩みを進めていきたいと思っています。月に一度のふれあいですが、子ども達と過ごす時間をよりよいものになるよう努めます。

小学生ならどなたでも、いつからでもジーザスキッズクラスに参加できます。小学生のお子さん、お孫さんの参加をお待ちしております。

各部だより

☞三日月会

3月1日(日) 三日月会喫茶

9時のミサ後 ～ 13時

イグナチオホール

3月16日(月) 例会 14時 ～ ミサ

講演 マシア神父不在

ビデオ鑑賞

☞青年会

3月8日(日)13:00頃 ～(教会掃除当番の為)

定例会(第5会議室)

内容:「分かち合い」等を予定

3月22日(日)12:30～ 定例会(第5会議室)

内容:「分かち合い」等を予定

☞壮年会

1. 壮年会典礼の勉強会(講師:藤原泰氏)

3月15日(日)10:15～11:45

第4会議室

2. 壮年会総会

3月29日(日)10:30～ 第1,2会議室

☞典礼部

●聖週間の典礼準備について

①聖なる過越の3日間のリハーサルを4月5日(日)13:30より大聖堂でおこないます。

②被洗足者は、三日月会2人、壮年会2人、婦人会2人、青年会1人、教会学校(リーダー1人、子供2人)、中高生会2人にお願ひすることになりました。

●聖週間の典礼当番表は、決定後掲示板に掲載しますので、奉仕者の方はご確認ください。

☞婦人会

3月20日(金)

10:00～集会祭儀と十字架の道行き

11:15～婦人会総会

☞社会活動部

3月6日(金)10:00 社会活動部連絡会

初金ミサと十字架の道行き終了後。

(第2会議室)

〈お知らせ〉

社会活動部より

- ・3月4日(水)10:00 手芸の集い 第1・2会議室
どなたでも参加ご自由です。
- ・3月14日(土)10:00 炊き出し(イグナチオお台所) 毎月第2土曜日
小野浜グラウンドにて配食や、おじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。
11:30 シナピス神戸“静修会”(次頁をご参照ください)
- ・3月16日(日)9時ミサ後 「手作りコーナー」(イグナチオホール)
お弁当・手作り品等の販売。
- ・3月19日(木)14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール) 奇数月第3木曜日
聖体拝領式と茶話会



“静修会”のお知らせ（シナピス神戸）

シナピス神戸では、常に“いのちと平和”を意識して祈りと共に歩んできたつもりですが、如何だったのでしょうか？ この静修会では、吉岡秀紀神父（シナピス神戸担当司祭）のご指導により、心静かに一年を振り返り、さらに深く神さまのみ声に耳を傾け、次への活動へと繋げていけるようになればと願い開催いたします。

どなたでも参加ご自由ですので、お誘いあわせの上ご参加下さい。

- ・日 時： 2009年3月14日（土） 11:30～16:00
- ・場 所： カトリック明石教会
- ・参加費： 無 料（☆昼食は各自持参）

♪ 詳しくは、聖堂入口のちらしをご覧ください。



「聖書通読クラスの説明会」のお知らせ

すでに昨年の教会報9月号でお知らせいたしました「共に聖書を通読する」クラスを4月から開始いたします。（毎週月曜日、10時～12時）

つきましては、説明会を致しますので、どうぞお気軽にご参加ください。

通読は、次の週から始めます。

説明会日時： 4月6日（月）午前10時～11時

場 所： 第4会議室

Sr. 出口



「ハサミ・包丁」とぎ承ります！！

恒例の中口さんの「ハサミ・包丁」とぎを3月8日(日) から6月末まで毎週土曜日、日曜日、初金の日承ります。当日、直接中口さんにお持ち下さい。

尚、中口さんのご好意で、収益金は「空調機器設備更新工事の特別献金」にご寄付いただきます。



フリン神父・追悼ミサ&しのぶ会

日時： 2009年3月28日(日) 10時30分～12時

場所： カトリック六甲教会 大聖堂

司式： 赤松神父、コリンズ神父 他



2月7日(土)に帰天されたフリン神父(先生)は六甲学院で30年間働かれ、学業は勿論多くの入信者を導かれました。キリスト教ではなく、「フリン教」とも言われたくらいの信望がありました。葬儀は2月10日(火)イグナチオ教会で多くの卒業生が見守る中荘厳に行われました。引き続き、「追悼ミサ」および「しのぶ会」を六甲教会で行います。同時に、遺品や写真の展示、回顧録の販売も予定しております。やむなく葬儀に出られなかった方々、どうぞお越してください。

図書室からのお願い

毎年秋のバザーの古本市では、本の寄贈、並びに御協力を頂きありがとうございます。バザー当日売残った本は図書室で引続き販売させていただきましたが、1月末で終了させていただきました。

今後の古本の御寄贈受付は、保管場所も無いため、秋のバザー前にお知らせするまで、お待ち下さいますよう御協力よろしくお願ひ申し上げます。



3 月 の 予 定

		教会暦	教会行事
1	日	四旬節第1主日	洗礼志願式 三日月会喫茶 17:00 海星病院ミサと灰の式
6	金		初金 7:00 10:00 ミサと十字架の道行き
7	土		10:00 祈りの道場(15:00ミサ) 15:00 パウロ年のミサ(大阪カテドラル)
8	日	四旬節第2主日	春の墓参(9時ミサ後) 11:15 小教区評議会 17:00 海星病院集会祭儀
13	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
14	土		14:30 教会学校ホールミサ
15	日	四旬節第3主日	17:00 海星病院ミサ
16	月		14:00 三日月会ミサと例会
19	木	聖ヨセフ(祭日)	14:00 ベタニアの集い
20	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き 11:15 婦人会総会 13:00 教会学校2年生 1日練成会
21	土		14:30 教会学校終業式 6年生卒業合宿 プチトマト公演
22	日	四旬節第4主日	10:15 堅信準備の勉強会 17:00 海星病院集会祭儀
23	月		11:00 ベビーとママの集い
25	水	神のお告げ(祭日)	
27	金		中高生会練成会(30日まで津和野にて) 10:00 集会祭儀と十字架の道行き(共同回心式)
28	土		10:30 哲学講座
29	日	四旬節第5主日	10:30 壮年会総会 17:00 海星病院集会祭儀

広報部員のつぶやき

編集作業をするたび感じます。みなさまの互いに仕える心と、その自然な姿勢の素晴らしさを。自ら小さき人として仕えること、生きること・・・私にとって、四旬節の、否、常に、大きな大きな課題です。

♪Fada♪

<p>教会報4月号の発行は、3月29日(日)です。 編集会議は3月22日(日)です。 記事原稿は、3月15日(日)正午までに信徒会館 受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>発行責任者 桜井彦孝神父</p> <p>編 集 広 報 部</p>
--	--